

科目名		CAD実習 II			
担当教員		廣田 邦昭・本間 陽貴		実務授業の有無	有
対象学科		建築士学科	対象学年	2年	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	実習	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		各自で設定した敷地に住宅をBIMを使って図面作成及びパース、プレゼンボードを作成する。 提案力・設計力・デザイン力を学びます。			
学習目標 (到達目標)		ポートフォリオに載せることのできる満足のいく一つの作品を完成させる			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		プリント配布			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	敷地の設定、法規の確認			実際の敷地を設定し、周辺調査する	
2	テーマの設定			課題に対する各自のテーマを詳細に詰める	
3	エスキス			テーマに沿ってエスキス、デザインの検討 詳細まで詰める	
4	作図			BIMを使ってモデリング、作図	
5	パース			CGパースを作成する	
5	レイアウト			図面、プレゼンボードの作成 納得行くまで表現を工夫すること	
6	発表			PowerPointを使ってスライドを作成し、プレゼンテーションをおこなう	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
課題	取組姿勢			図面表現のルールを設計を通して学び、最低限の必要表現を学んでください。1年生の頃に学んだ知識や技術を使い、オリジナルの住宅を妥協せず設計してください。	
80 %	20 %	%	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		廣田 邦昭：店舗設計デザイン事務所16年勤務を経て現在個人事務所 実務合計45年 本間 陽貴：公共・住宅設計に10年従事			

科目名		一般構造Ⅱ			
担当教員		広川智子		実務授業の有無	有
対象学科		建築士学科	対象学年	2	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		建築を考えるうえで一般構造の基礎的な仕組みを理解しておく必要があります。そのために授業では、S造とRC造を中心に解説します。S造とRC造を理解でき、説明できるようになることを目指します。授業の進め方は、講義→2級建築士の試験問題→解説を繰り返します。授業後に評価テストを実施し、理解度を確認します。			
学習目標 (到達目標)		S造とRC造を中心に学び、2級建築士学会試験の科目範囲の合格点に達するための理解を目指します。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①図説やさしい建築一般構造 著者：今村仁美・田中美都 発行：(株)学芸出版社 ②配布プリント			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	鉄骨造-1 ①鉄骨造の特徴 ②構造形式			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
2	鉄骨造-2 ①接合部（リベット、普通ボルト、高力ボルト）			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
3	鉄骨造-3 ①接合部（溶接）			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
4	鉄骨造-4 ①部材の設計 ②各部の構造			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
5	鉄筋コンクリート造-1 ①コンクリート造 ②コンクリートの強度			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
6	鉄筋コンクリート造-2 ①鉄筋の特徴 ②鉄筋コンクリート造の基礎知識			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
7	鉄筋コンクリート造-3 ①鉄筋の配筋計画			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
8	鉄筋コンクリート造-4 ①せん断補強筋比の計算			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
9	その他の構造 ①SRC造・補強コンクリートブロック構造 ②組積造・プレストレストコンクリート造			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
評価テスト	期末テスト	取組姿勢		社会に出てからの実務や建築士試験を受験するときに不可欠な、建築一般構造について解説します。	
40 %	50 %	10 %	%	2年の前期はS造、RC造について仕組みを中心に説明し、評価テストで理解度を確認しながら合格基準への到達を目標とします。	
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。				取組姿勢：授業態度、欠席、遅刻など総合的に判断します。	
実務経験教員の経歴		住宅設計に10年以上従事			

科目名		建築計画Ⅱ			
担当教員		熊谷貴子	実務授業の有無	有	
対象学科		建築士学科	対象学年	2	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		非住宅建築物ごとの、種類・規模計画・動線計画・平面計画・断面計画・設備計画・関連用語などを学ぶ ・教科書で用語・数値など重要項目をチェック ・まとめ板書 ・テスト			
学習目標 (到達目標)		2級建築士試験の学科<計画>に対応できる知識を習得する			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		○図説 やさしい建築計画 (学芸出版) 各自で準備 ●教科書をチェックするマーカーペン ●板書を記入するノート			
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	小学校・中学校		運営方式、動線計画、教室計画、関連用語を学ぶ		
2	幼稚園・保育所		幼稚園と保育所の違い、幼乳児に配慮した各部計画を学ぶ		
3	テスト①		学習達成度を確認する		
4	図書館		種類、構成、動線計画、閲覧形式、書架配置、用語を学ぶ		
5	博物館・美術館		種類、構成、動線計画、巡回形式、照明計画、用語を学ぶ		
6	テスト②		学習達成度を確認する		
7	劇場・映画館		種類、構成、動線計画、舞台形式、客席計画を学ぶ		
8	事務所		レンタル比、コアプラン、事務室の計画、関連用語を学ぶ		
9	テスト③		学習達成度を確認する		
10					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価テスト	期末試験	取組姿勢			
40 %	50 %	10 %	%	様々な建築物の計画を学び、身近な建築物の計画に興味を持って接していきましょう	
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		建設会社にて設計補助・インテリアコーディネーター、職業訓練校にてCAD・製図の外部			

科目名		建築施工Ⅱ			
担当教員		渡邊 晋太郎		実務授業の有無	有
対象学科	建築士学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方		2年次は屋根工事の分野から学んでいく。 この前期では、その他の内外装工事のいろいろな施工方法や製品管理の仕方、材料の種類などを詳しく学び、それが理解できる様になることを目的とする。 後期に目指す2級建築施工管理学科試験、そしてその後の2級建築士学科試験を見据えて、詳しく学習する。			
学習目標 (到達目標)		2級建築施工管理学科試験、2級建築士試験合格レベルの知識定着を目標とする。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		図説 建築施工（学芸出版社）、配布資料			
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	屋根工事		屋根工事の種類を覚え、雨仕舞の施工方法を理解することができる。		
2	防水工事		防水工事の種類を理解し、納まりや手法を理解することができる。防水の一種でもある【シーリング工事】も一緒に学ぶ。		
3	左官工事		左官工事にかかわる材料の種類を学び、それをどのような工程で施工していくのかを理解する。		
4	タイル工事		タイルの種類を理解し、その施工方法を学ぶ。		
5	石工事		張り石工事の施工方法の種類を理解することができる。		
6	内装工事		内装工事の施工方法の種類を理解することができる。		
7	順次 評価テストを実施する。 (2回以上実施予定)				
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
期末試験	評価テスト	取り組み姿勢		%	
50 %	40 %	10 %		%	
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		意匠設計実務12年			

科目名		建築設計実習A			
担当教員		熊谷 貴子		実務授業の有無	有
対象学科	建築士学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	実習	時間数	48
授業概要、目的、授業の進め方		<ul style="list-style-type: none"> <li>・2級建築士試験の設計製図の概要・要求図書・到達レベルを学ぶ</li> <li>・要求図書の条件を満たす図面の作成とそのチェックを学ぶ</li> <li>・伏図の内容を理解し、平面計画と伏図の作成を学ぶ</li> </ul>			
学習目標 (到達目標)		2級建築士の設計製図試験(木造)の、合格レベルの図面とエスキスを作成をする			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		設計製図テキスト(総合資格学院) ・製図用具一式 ・マーカーペン(イロとビツク) ・電卓			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	二級建築士設計製図試験の概要			設計製図試験の出題形式・制限時間・要求図書・合格レベルについて学ぶ	
2	作図演習			要求図書の作図トレース	
3				<ul style="list-style-type: none"> <li>・面積表・計画の要点</li> <li>・平面図・立面図</li> <li>・伏図・矩計図</li> </ul>	
4	提出課題1			<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題文の要求図書欄を確認する</li> <li>・各自で作図チェックする</li> </ul> 期限内に完成させ提出する	
5	伏図演習			<ul style="list-style-type: none"> <li>・伏図の作図内容を理解する</li> <li>・平面計画から伏図を作図する</li> </ul>	
6	提出課題2			<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題文の要求図書欄から作図チェックする</li> </ul> 期限内に完成させ提出する	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
提出課題		取組姿勢		試験合格のために必要な作図力とエスキス作成手順を身につけましょう 互いに作図やエスキスをチェックしあいましょう	
80 %	%	20 %	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴	建設会社にて設計補助・インテリアコーディネーター、職業訓練校にてCAD・製図の外務				

科目名		建築設計実習B			
担当教員		佐野 綾香		実務授業の有無	有
対象学科		建築士学科	対象学年	2	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	実習	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		2級建築士製図試験の非木造 (RC、S) についての、エスキスの方法を教科書に沿って学び、RC造S造それぞれの図面の描き方を教科書に沿って練習します。			
学習目標 (到達目標)		2級建築士製図試験の非木造 (RC、S) についての、エスキスから作図までを習得する			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		設計製図テキスト (総合資格学院) /プリント配布			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	製図の基礎の復習			1年生で学んだ線の太さや文字の濃さ等、製図にて必要になる技術の復習を行い提出する。	
2	RC造エスキース			エスキスの方法を全員で教科書に沿ってしっかり学習します (テキストケーススタディを利用)	
3	RC造作図練習			平面図、断面図、立面図、断面詳細図の作図方法を段階を踏んで全員ベースを揃えて作図練習していきます。A2版図面を課題として提出	
4	S造エスキース			エスキスの方法を全員で教科書に沿ってしっかり学習します (テキストケーススタディを利用)	
5	S造作図練習			平面図、断面図、立面図、断面詳細図の作図方法を段階を踏んで全員ベースを揃えて作図練習していきます。A2版図面を課題として提出	
6	RC造住宅-1			例題課題を与えます。全員である程度のところまでいっしょにエスキスします。各自：エスキス完成提出 (エスキスグリッド用紙) 製図：完成提出 (A2 ケント紙)	
7	RC造住宅-2			例題課題を与えます。全員である程度のところまでいっしょにエスキスします。各自：エスキス完成提出 (エスキスグリッド用紙) 製図：完成提出 (A2 ケント紙)	
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
課題	取組姿勢			必須提出課題の点数に加え、通常の授業態度や出席率を加味して総合的に判断します。しっかり 自分の中で目標を持って、集中して実習に臨んでください	
70 %	30 %	%	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満)・B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満)・D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		意匠設計実務4年			

科目名		建築総合実習			
担当教員		本間 陽貴		実務授業の有無	有
対象学科	建築士学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	実習	時間数	48時間
授業概要、目的、授業の進め方		・1年時に学んだ製図の知識を活用し、自分で考えた空間を創り上げます。ここでは実際の競技設計を念頭にアイデアを形にまとめることを学びます。			
学習目標 (到達目標)		・自分自身の知識と技術を以って、オリジナルの建物、空間を提案し、プレゼンボードとしてまとめる。 ・自身の作品をプレゼンテーションする。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		コンペ応募概要等			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	建築コンペとは ①課題を分析しコンセプトを検討 ②具体的な課題を提案するプロセス			①～②の項目を理解し適正に作業できる。 準備学習：教科書やインターネットを使い、情報収集しコンペのプロセスを確認する。	
2	課題の分析 ①課題を分析と出題の趣旨の解釈。			課題を分析し出題の趣旨を理解する。 準備学習：教科書やインターネットを使い、課題の背景にある問題を理解し、出題の意図を探る。	
3	方向性の検討 ①条件の整理と設計の方向性			条件の整理と方向性決定 準備学習：設計条件を整理し、設計の方向性を決める。	
4	コンセプト作成のプロセス ①方向性の確認とコンセプト設定 ②サブタイトルの設定 ③コンセプトと設計方針の発表			コンセプトを考える。 決定した方向性から、コンセプトを決定する。 準備学習：コンセプトを明快にするためサブタイトルを付ける。	
5	エスキースのプロセスと作成 ①イメージを形にする方法 ②ひらめきの記録：思い付きのスケッチ			コンセプトをもとにエスキースを作成する。 準備学習：思い付きのスケッチ	
6	コンテンツの作成 ①エスキースを基に図面やパース作成			エスキースから各種図面やパースを作成する。 準備学習：何を伝えるためのコンテンツなのかを明確にしておく。	
7	プレゼンボードの作成 ①タイトル、コンセプト、コンテンツ等をレイアウトする。			作成したコンテンツをレイアウトしプレゼンボードを作成する。準備学習：見やすさ、分かりやすさを意識したレイアウトを心掛ける。	
8	プレゼンテーション ①プレゼンテーション資料作成 ②プレゼンテーション実施			①プレゼン資料を作成する。 ②プレゼンテーションを行う。 ③講評 準備学習：実際の発表を想定してプレゼンテーション構成を決める。	
9	プレゼンボード作成時に考える注意点			プレゼンボードに於けるレイアウト、画像の角度、画像の合成等プレゼンボードの見栄えについても学びます。	
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
課題評価	取組姿勢			設計とは自分の頭の中にあるイメージを手を動かして形にすることです。漠然としたイメージが最終的に形になるその面白さを経験してみてください。	
80 %	20 %	%	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		公共・住宅設計に10年従事			

科目名		建築特講			
担当教員		廣田 邦昭・本間 陽貴		実務授業の有無	有
対象学科		建築士学科	対象学年	2	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	実習	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		建築空間の表現・伝達に必須である設計の表現方法の一つとして必要な①デッサン（鉛筆）又はRevit Architecture ユーザー試験のいずれかを選択。履修後jw_cad・Twinmotionの項目で、合流する。			
学習目標（到達目標）		エスキスの習熟度を上げ設計提案のノウハウを体得するを目的とします。また、建築士が必要とするスキルにあたる内容のため、合格点に達する習熟度を目標とする			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①REVIT検定対策本 ②やさしく学ぶjw_cad使用			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	Revit Architectureユーザー試験 ①Revit検定対策授業			方法：対策本をもとに検定対策を実施し、合格を目指す。課題→講評→解説を繰り返すことでスキルを身に付け、合格基準到達を目指す。	
2	・jw_cad ①2次元C A Dのjw_cad			方法：2次元C A Dのjw_cadを基礎から学びます。他のC A Dも他授業で学んでいますが、製図版で書く手書き製図感覚で操作できるjw_cadをココで学びます。	
3	・Twinmotion ①Twinmotionで添景や背景の設定を行う。			方法：資料を基にTwinmotionの基本操作を学ぶ。	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
課題評価	取組姿勢			Revitを学習し、その後、jwcad・Twinmotionで合流する授業形態となっている。 REVIT検定に合格しより実践的な使い方を身につけてもらいたい。また、手軽に使えるj w_cadを習得してもらいたい。 ※REVIT検定対策授業の評価は検定得点を採用する。	
80 %	20 %	%	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		廣田 邦昭：店舗設計デザイン事務所16年勤務を経て現在個人事務所 実務合計45年 本間 陽貴：公共・住宅設計に10年従事			



科目名		建築法規 II			
担当教員		本間 陽貴		実務授業の有無	有
対象学科	建築士学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	「建築法規 II」は、1年次の基礎知識を基に、二級建築士試験・実務に対応出来る建築法規の習得を目的とする。授業内容に伴い、基準法・施行令・告示等の関連を練習問題等で確認して条文の理解を深める。				
学習目標 (到達目標)	二級建築士取得に必要な建築法規の知識習得を目指す				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	「図説やさしい建築法規」・著者：今村仁美・田中美都 発行所：(株)学芸出版社、「建築関係法令集」発行所：(株)総合資格学院				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	防火地域・準防火地域・法22条区域			防火地域(準防火地域)内に関する建築物の規定を説明する。 ※理解度のチェックを評価テストで確認。	
2	耐火構造・準耐火構造・防火構造等			建築物の耐火性能、防火材料に関する説明。また、用途・規模等による必要な構造の確認。(建築基準法 別表1による確認) ※理解度のチェックを評価テストで確認。	
3	大規模建築物の防火区画			大規模建築物の用途・規模等による必要な防火区画・種類等を確認。防火区画の各種構造等を説明する。 ※理解度のチェックを評価テストで確認。	
4	特殊建築物の内装制限			建築物の用途・規模等による必要な内装制限があることを説明する。 ※理解度のチェックを評価テストで確認。	
5	避難施設(避難経路・直通階段・避難階段・排煙設備・非常用の避難施設)			廊下・階段等の必要な幅・出入口等、排煙設備・非常用の照明・進入口・昇降機の設置基準、構造が理解する。 ※理解度のチェックを評価テストで確認。	
6	構造強度(木造) ※この項目は、時間があれば行うものとしてします			木造建築物の構造強度に関する規定を説明。また、構造計算・許容応力度計算の説明と確認を行う。 ※理解度のチェックを評価テストで確認。	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
期末試験	評価テスト	取組姿勢		法令は建築の全てで、つながっています。1年生で習った授業を思い出しながら、その関連する条項条文を確認できるように法令集を使いこなせるが大切です。いづれ皆さんの役立ち時がくると思いますので、難しく考えず、一緒に頑張ってください。	
50 %	30 %	20 %	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満)・B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満)・D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴	公共・住宅設計に10年従事				

科目名		構造力学 II			
担当教員		羽下 準嗣		実務授業の有無	有
対象学科	建築士学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方		1年次に修得した構造力学の基礎を基に、断面の性質、応力度に関する知識を習得し、断面算定の基礎を学習。又、学習した断面の諸係数を基に、座屈、たわみに関する知識を習得。これまで学習してきた内容を基に不静定構造の基礎を学習します。			
学習目標 (到達目標)		断面の諸係数から応力度、座屈、たわみ、不静定構造の基礎までを学習。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		教科書 (やさしい構造力学)、配布プリント			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	断面の諸係数			断面1次モーメント、断面2次モーメント、断面係数の解説より解法を学習する。	
2	応力度			軸応力度、曲げ応力度、せん断応力度の解説より解法を学習する。	
3	座屈			座屈の基礎から座屈長さ、座屈荷重について学習。支点の種類、断面形状、断面二次モーメントとの関係について学習する。	
4	たわみ			たわみの基礎からたわみ量、たわみ角について学習。	
5	不静定構造物			不静定構造の基礎からその基本的な解法を学習。	
6	塑性解析			塑性の基礎から構造物の崩壊、保有水平耐力について学習。	
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
評価テスト	期末試験	取組姿勢		1年次の基礎がとても大切になっています。各授業での理解度を確認しながら進めます。	
40 %	40 %	20 %	%	計算自体はとても簡単です。建築士試験でも出題される分野ですので頑張りましょう。	
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		建築設計事務所にて意匠設計に従事。			

科目名		建築材料実験				
担当教員		田中 みちよ		実務授業の有無	有	
対象学科		建築系学科	対象学年	2年生	開講時期	前期
必修・選択		必修	授業形式	実験	時間数	24時間
授業概要、目的、授業の進め方		<p>実験で経験したことは、社会に出てからの実務や建築士試験を受験する時に思いがけず助けになる。逆にひとつひとつの意義がわかるのは、少し時間が経ってからとも言える。</p> <p>実験をとおして、コンクリートの各材料（セメント・細骨材・粗骨材）の特性を知る。コンクリート調合設計の基本を知る。</p>				
学習目標（到達目標）		コンクリートの品質管理と、建築物の工事監理及び施工管理における材料管理法の知識を得る。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		配布プリントを主とする。必要に応じて建築一般構造・建築材料テキストを引用する。				
NO.	学習方法・準備学習・備考					
1	骨材の密度試験・吸水率試験		細骨材・粗骨材の密度と吸水率を調べ、コンクリートの骨材として適するかどうかを確認できる。			
2	骨材ふるいわけ試験		細骨材・粗骨材の粗粒率と粒度分布を知り、それがコンクリートの骨材として適するかどうかを確認できる。			
3	コンクリートの調合設計		各実験データをもとに、コンクリートの調合計算を行い、各材料の質量・容積を求めることができる。			
4	供試体の製作、養生		先に求めた量でコンクリートを練り、各水セメント比での圧縮試験用供試体を製作する。更に標準養生にて養生を行う。			
5	コンクリート圧縮強度試験		圧縮試験を実施し、各水セメント比における試験データを分析し、水セメント比と強度の関係を知らることができる。			
6						
7						
8						
9						
10						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
期末テスト	取組姿勢			<p>この実験はグループ作業であり、社会に出てから特に重要となる協調性も視野に入れている。実験態度、グループ内での協調性、レポート、試験で総合的に評価する。</p> <p>また、高価な器具と危険な動作もあるため、別紙注意事項を遵守する。</p>		
70 %	30 %	%	%			
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満)						
B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満)						
D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。						
実務経験教員の経歴		建設会社及び建築設計事務所(自営)で、施工管理・積算・品質管理の実務32年				

科目名		就職実務 II				
担当教員		本間 陽貴		実務授業の有無	有	
対象学科		建築士学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方		就職に向けた準備をして実行に移す。就職を希望する学生はすでに就職活動を開始しているが、内定に向けて更に力を入れて取り組む。進学を希望する学生にとっても、就職活動は来年の今頃にはすでに始まっていることを念頭に置き、それに向けて取り組む。様々な仕事をイメージして自分に適した業種・職種を見つけ出す。適宜企業見学・現場見学なども行い、更なる意識付けを図る。今後必ず必要となる文章作成に向け適宜レポート提出課題を出題する。更にコミュニケーション能力検定を実施し、合格を目指す。				
学習目標 (到達目標)		自分を知り、企業を研究して、自分に適した業種・職種を見つけ出す。就職活動の流れをイメージして、実行に移す。また、ここでは社会人としての振る舞いを意識し、この点でも評価の対象とする。更に、コミュニケーション能力検定の合格を目指す。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		Success・配布プリント				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考			
1	就職活動を行う際の注意事項の再確認		就職活動を行うにあたり、学校への様々な提出書類を再確認する。更に、企業訪問やガイダンス等に参加する際の注意事項、企業とのアポイントメントの取り方等を再確認する。			
2	就職活動の心構えと具体的な動き方の再確認		働く意義・企業が求める人材・身だしなみを再確認し、企業を選定する方法、及び、受験の方法を再確認する。			
3	進路に対する個別相談		学生に対して個別の進路相談を随時行い、考えを把握する。また、情報提供やアドバイスを適切に行い、就職活動・進路研究を円滑に進めていく。			
4	求職者に対する就職活動へのフォロー		学生の希望を確認した上で、求人等の情報を提供し、就職活動をする際の書類チェック、面接指導などを必要に応じて随時行う。			
5	建築士専攻科への進学希望者へのフォロー		資格取得後の就職を検討し、将来のビジョンを見つけることで、学習への意欲につなげる。進学前のポートフォリオ作成を促し、進学後の就職活動の円滑化を図る。			
6	ポートフォリオの作成		就職活動で必要となるポートフォリオを作成する。これまでの作品を随時納める。納得のいく作品集となるよう、構成なども工夫する。最終授業日での評価とする。			
7	ビジネスマナーの習得		社会人としての振る舞いを意識する。言葉遣い・報連相・電話のマナー・メールのマナー・メモの取る等これらが当たり前にできることを目指す。前期を通しての評価とする。			
8	作文・レポート等文章の作成		作文・レポート等の文章作成に取り組み、「課題」に対して適切に応える能力を身に付ける。起承転結の文章構成・誤字脱字・段落についても習得する。			
9	※提出課題を評価テストとして評価する。		※半期を通して習熟を目指す為、番号通りには進まずに適宜取り組むこととする。ポートフォリオに関しては、これまでの作品に加え、自主的に完成度を高めることとする。			
10						
評価方法・成績評価基準			履修上の注意			
課題	取組姿勢					
80 %	20 %	%	%			
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満)・B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満)・D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。			求職者は既に就職活動を始めていますが、進学希望者にとって、就職のイメージはまだ明確でない人も多いと思います。しかし、就職活動は2年次の終わるところから本格的に始動します。その時になって慌てることの無いように準備を進めていきましょう。進路については迷っている人も多いと思いますが、まずは自分がどうしたいのかを明確にしましょう。			
実務経験教員の経歴		公共・住宅設計に10年従事				